

一般質問



一般質問は、12月16日、17日、18日の3日間行われ、20人の議員が登壇しました。質問は、市政全般にわたり、活発な議論が展開されました。

一般質問は、3面・4面・5面にも掲載されています。(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)

※会派の表記について、「自民党・新政クラブ」は略称として「自民・新政」としています。



公明党 横山むらさき

幸齢社会の実現に向けて フレイル予防の推進を

健康寿命の延伸について

※フレイル予防の重要性について市民への周知はどうか。また、令和3年度に開催されるねんりんピックを、本市はどう迎えるのか。

答 元年度は、栄養、運動、社会参加を網羅した内容の普及啓発を行っている。今後、フレイル測定などを通して積極的に周知したい。また、ねんりんピックはオール秦野で取り組み、市民の健康寿命延伸を目指すイベントにしたい。

食品ロス対策について

令和元年5月に食品ロス削減推進法が成立したが、企業や飲食店などへの働きかけや※フードドライブの実施状況はどうか。

答 事業者ごとの課題を把握し改善指導を行っており、減量に取り



市民を対象としたフレイルチェック測定会



創和会 原 聡

社会・農業環境の変化や 制度改正時への対応を

有害鳥獣対策の強化について

近年の鳥獣被害は甚大だが、農業を取り巻く環境の変化や、本市における熊の出没状況はどうか。

答 農家戸数は10年間で129戸減少し、耕作放棄地は3ヘクタール増加している。熊の目撃情報は、令和元年10月末時点で9件と過去最多である。原因は、果実の凶作

る。令和元年度に設置した鳥獣被害対策実施隊の活動状況と、捕獲の成果を上げるための報奨金やICT活用の考えはどうか。

答 鳥獣被害対策実施隊員を非常勤特別職員として委嘱し、農業者の負担軽減を図り捕獲体制を強化した。平成30年度の同時期に比べ捕獲頭数は増加し成果は出ているが、捕獲報奨金やICT活用など効果的な手法を検討したい。



創和会 横溝 泰世

誰もが安心して住める 地域社会の創造へ

創和会 地域共生社会に向けた取り組みについて

高齢者や障がい者などの対象者に対して段階ごとに、量・質共に一定の整備が図られてきた反面相互扶助により支えられてきた地域コミュニティが希薄化している。こうした社会環境の中で相談件数は年々増加し、複層的な相談業務となっている。地域共生社会では、「いつでもどこでも安心して」相談できる環境づくりが必要であると考えはどうか。

答 国の「我が事・丸ごと」の理念に基づき、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる地域福祉の推進に向け、令和3年度には包括的な支援体制を整うようにしていきたい。



生ごみ減量につながる
ディスプレイの普及を

二 生ごみ減量に向けた取り組みについて

処理機やディスプレイなどの補助制度により事業化が図られてきたが、補助件数は本市の全世帯数の5%に満たない。特に、直投式のディスプレイは利便性があり、中央処理区内の普及促進を図るべ



自民・新政 川口 薫

魅力ある秦野を積極的にPRし 人口減少の抑制を

自民・新政 人口減少抑制に向けた取り組みについて

社会問題として人口減少が進む中、本市における人口動態はどうか。また、移住・定住施策の考え方、空き家の状況はどうか。

答 平成22年9月の約17万人をピークに9年間で約5400人減少したが、31年1月と令和元年11月までの統計では、転入者数が転出者数を上回っている。移住・定住施策の方向性については、現総合計画にも掲げ取り組んでいるが、本市の強みを生かした住環境の良

きである。また、年次計画を策定すべきと考えはどうか。

答 生ごみ減量は喫緊の課題であるため、ディスプレイは有効と考えるが、流域下水道などにおいては他市にまたがるため、今後とも努力する。また、年次計画については、上下水道局と環境産業部で連携し、検討していきたい。



平沢小原地区に市内で初めて
設置された囲いわな

した場合に同時実施が可能となり、約2200万円の経費削減が見込まれる。また、県内の投票率の平均を比較すると、同時実施している市の平均投票率の方が、約3%高くなる傾向にある。

要望 経費削減や投票率の向上に一定の効果があるほか、働き方改革にも合致する。制度改正を待つことになると考えるが、より効果的な事務を執行してほしい。



住環境の良さを積極的なPRを

さをPRし、人口減少に歯止めをかけたいと考える。また、市内の空き家は約1900軒と推計しているが、元年度は、空き家の実態把握調査を実施しており、調査結果を踏まえて、対応策を検討し、実施したいと考えている。

要望 空き家バンクの活用など、管理不全の空き家の適正な管理を推進し、住環境の充実に努めるとともに、本市の住環境の良さを積極的にPRし、人口減少の抑制に努めてほしい。

二 水需要におけるビジョンについて



公明党 山下 博己

乾燥汚泥の利活用で循環型社会の構築を SDGsの理念にも合致

※SDGs(持続可能な開発目標)の今後の取り組みについて

現在策定中の令和3年度からの新総合計画に、SDGsの理念を盛り込むこととなっているが、今後の取り組みはどうか。

答 環境対策や共生社会の実現など、誰一人取り残さない理念を計画の中でどう具現化していくか、調査・研究する。また、横断的なパートナーシップのための、庁内組織の在り方についても検討する。

要望 先進的に取り組んでいる自治体を参考に、ぜひSDGs未来都市を目指してほしい。

二 下水道の汚水処理について

国が主体で、革新的な技術を活用した汚泥乾燥システムを本市に設置し、平成30年度に実証実験

問 本市の宝である地下水を、安定的かつ持続的に利用していくための取り組みはどうか。

答 地下水をかん養し、量と質の保全に引き続き取り組むとともに、地下水の状況を積極的にPRするほか、水道料金の見直しも含めた健全な水道事業の運営に努める。



本市の汚泥乾燥システム

を実施したが、その効果はどうか。

答 熱効率の大幅な向上に伴うCO2削減や、乾燥汚泥が燃料や肥料としても活用できることが確認され、全体として約4700万円のコスト削減ができた。

問 廃棄物として処理している乾燥汚泥を有価物として利活用していく必要があると考えるがどうか。

答 有価物としての活用は有意義であるが、販路拡大などさまざまな課題もあり、今後、課題解決に向けてしっかりと取り組んでいく。要望 乾燥汚泥の利活用を進めることは、循環型社会構築へ向けた画期的な取り組みであり、SDGsの理念にも合致する。可能性に向けてチャレンジしてほしい。

議長公務(12月~2月)

議長の主な公務についてお知らせします。より詳細な公務日程については、市議会ホームページでも公開しています。



今井 実 議長

○12月

- 1日(日)第15回はだの丹沢水無川マラソン大会
- 28日(土)令和元年市長・消防団長激励式

○1月

- 1日(水)ニューイヤーウォークin弘法山
- 7日(火)令和2年秦野市新年賀詞交歓会
- 9日(木)秦野商工会議所・令和2年新年賀詞交歓会
- 11日(土)令和2年秦野市消防出初式
- 13日(月)令和2年秦野市新成人のつどい
- 14日(火)秦野市農業協同組合2020年新年賀詞交歓会
- 18日(土)令和元年度秦野市教育功労者等表彰式
- 30日(木)県央八市議会議員連絡協議会令和元年度議員合同研修会

○2月

- 1日(土)第74回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会結団式
- 2日(日)第17回秦野市保健福祉センターフェスティバル
- 9日(日)第12回秦野市県人会フェア

用語解説

※フレイル…日本老年医学会が提唱した概念で「frailty(虚弱)」の日本語訳。健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態
※フードドライブ…家庭で余っている食品を持ち寄り、福祉団体や生活困窮者など必要とする人に寄付する活動
※SDGs(持続可能な開発目標)…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている